

派遣報告書(報告者:樋口俊司)

大会名	第8回全日本社会人バスケットボール選手権大会九州ブロック予選
開催地	沖縄県那覇市
日時	令和 7年12月 20 日(土)～ 21 日(日)
担当ゲーム1	CHECKMATE(沖縄県) vs 浦上自動車(長崎県)
クルー	CC:樋口俊司(大分県) U1: 石嶺壮一郎(沖縄県) U2: 松本将司(沖縄県)
担当ゲーム2	ひらまつ病院(佐賀県) vs 中村消防 煌クラブ(宮崎県)
クルー	CC: 樋口俊司(大分県) U1: 渡慶次司(沖縄県) U2: 大城由華(沖縄県)
担当ゲーム3	ひらまつ病院(佐賀県) vs ストレッチ(長崎県)
クルー	CC: 樋口俊司(大分県) U1: 平安拓也(沖縄県) U2: 本永滉太(沖縄県)
(担当ゲーム)Pre-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none">・両チームのスкауティング情報共有(とくに注目すべきマッチアップ、ラフプレーヤー)・Court-in-spection・Edgeのprimaryと約束事の確認	
(担当ゲーム)Post-Game Conference	
<ul style="list-style-type: none">・コミュニケーションを通じ、円滑なゲームができていたが、試合時間が1時間50分となってしまったことには、審判サイドでできることはあったのではないかと検討すべき・タクティクスなコンタクトは速やかにファウルコールにつなげ、ラフプレーを避けるべきとの自己反省	
今大会に参加しての感想など	
<p>沖縄県は12月になっても気温が20度近く、湿度も高いため、体調がついていくかを心配であった。今回はたまたま期間中に肉離れなどを起こす参加者もおらず良かったのだが、沖縄への出張は今後も情報を取りながら怪我なく執務が行えるように管理をしていきたいと思った。</p> <p>ゲームについては、社会人カテゴリーでもあるため、質の悪いコンタクトは取り上げつつ、ゲームフローを意識しながら運営をしたいと考えた。ただ、ゲームのクロージングについては、最後までしっかりとしたいという思いが強く、コールに結ぶのではなく、声を使ったりするなどの工夫を行うことで試合時間の短縮を行えるのではないかと反省している。</p> <p>大会期間中は沖縄県の皆様の手厚すぎるほどのご配慮と歓待に本当に感謝しています。大会へのお力添えができれば・・・と思っていたのだが、日本一バスケの盛んな県である沖縄県とそれを支える皆さんの情熱にふれることがたくさん元気をいただきました。</p> <p>近年、社会人登録が減り、運営費もままならない状況で、以前のように各県からの審判員派遣ができなくなっている中で、このような機会をいただけたことに本当に感謝しております。今後も九州の一助になれるように自己研鑽を続けてまいりたいと思います。今回の派遣に当たり、家族、職場、大分県協会や審判委員会の皆様、更にはホスト県である沖縄県の皆様に感謝もうしあげまして、報告とさせていただきます。ありがとうございました。</p>	